

# インドネシア共和国洞穴探検

黒木 勇志朗（立命館大学 探検部）



Kiri Lulu Kawaka

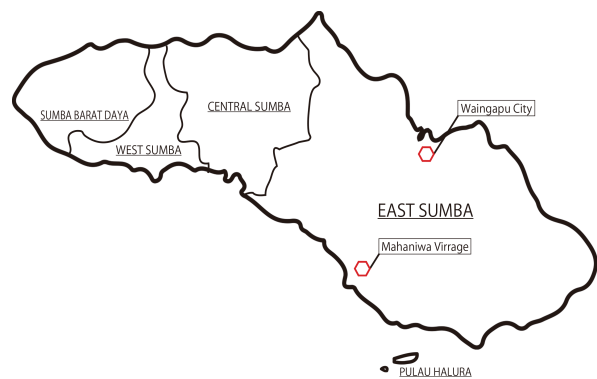
## 1. はじめに

立命館大学探検部では 2015 年夏にインドネシア・スンバ島で一か月にわたる前人未到の洞窟調査を行った。既にケイビングジャーナルに掲載した事前調査・準備の記事に続いて、今号では本遠征の報告の一部を記す。

## 2. 調査地域の概要

スンバ島は、インドネシア南東部に円弧上に伸びる小スンダ列島の一部として、北部はスンバの海峡、東部はサウマラ海、南部をインド洋に囲まれている。南緯 9° 17' ~ 10° 18', 東経 119° 00' ~ 120° 49' に位置し、東西 210km, 南北 110km の北西 - 南東に細長いサツマイモ形をしている。我々が調査を行った地域は、東ヌサウンガラ (NTT) 州東スンバ県 Pinu Pahar 管区、Laiwangi Wanggameti 国立公園内部に位置している Mahaniwa 村とその周辺地域である。Mahaniwa 村は空港のある Waingapu 市から車をチャーターして 4 ~ 5 時間ほどの距離にあり、標高 735m と島内では比較的高地に位置している。面積は、22,1 km<sup>2</sup> の小さな村で、人口は 726 人 (167 世帯) である (2013 年の東スンバ県統計局の資料による)。北部を Waikanabu、東部を Katikuwai、西南を Praingkareha の村と隣接している。Mahaniwa 村では、発電機を有する世帯は 20 世帯程度、それ以外の世帯はガスランプを使用しており、経済的に非常に厳しい地域である。また、見晴らしの良い場所であ

ば、携帯の電波が入る。ほとんどの村人が農民として、生活の糧を得ているが、トレーダーや工芸産業、ガイドなども行っている。村内に小さな売店なども存在するが、食料などの調達には近隣村の Ramuk 村まで買い出しに出る必要がある。



スンバ島内位置図

### < 地形 >

スンバ島の最高峰は、南東部に位置する標高 1,225m の Wanggameti 山である。島全体を見ても、1,000m 以上の高地は Wanggameti 山周辺のみで 0.2%、500m 以上の面積が 20% となっており、500m 以下の低標高部が多い。加えて、丘陵性山地と海岸段丘域が広く分布することなど